

Participants 2014



青山南

1949年生まれ。翻訳家・エッセイスト。著書に、『ネットと戦争』（岩波新書）、『短編小説のアメリカ52講』（平凡社ライブラリー）、『南の話』（毎日新聞社）ほか多数。訳書に、ジャック・ケルアック『オン・ザ・ロード』（河出文庫）、サルマン・ラシュディ『ハルーンとお話の海』（国書刊行会）、ジョン・ディディオン『ベツレヘムに向け、身を屈めて』（筑摩書房）ほか多数。



浅田次郎

1951年生まれ。1991年『とられてたまるか！』でデビュー。1997年『鉄道員【ぽっぽや】』で直木賞受賞。主な作品に、『壬生義士伝』（2000年、柴田錬三郎賞）『中原の虹』（2008年、吉川英治賞）など。



足立菜穂子

編集者。スイッチ・パブリッシング発行の旅の雑誌「コヨーテ」と文芸誌「モンキー」のほか、書籍の編集にも携わる



阿部公彦

1966年生まれ。東京大学文学部准教授。英米文学研究と文学一般の評論を行う。著書に『即興文学のつくり方』、『英語文章読本』、『文学を凝視する』（サントリー学芸賞受賞）、『詩的思考のめざめ』など。紀伊國屋書店「書評空間」のサイトで書評を連載中。



ユカ・イガラシ

『グランタ』の編集者、『グランタ127』（日本特集号）の編集者。コロンビア大学及びパーソンズ・ザ・ニュースクール・フォー・デザインなどで教鞭を取る。



市川真人

批評家・編集者 1971年生。文学は勿論、マンガから賭け事まで幅広い批評活動を行いつつ、日々本を紹介し続けている。早稲田大学准教授として「早稲田文学」の運営にもあたりつつ、TV「王様のブランチ」の本コーナーのコメンテーターなどを務める。著書に『芥川賞はなぜ村上春樹にあたえられなかったか』ほか。



岩本正恵

1964年生まれ。翻訳家。主な訳書にA・ヘモン『ノーホエア・マン』、O・オラフソン『ヴァレンタインズ』、P・キャメロン『最終目的地』、A・ドーア『メモリー・ウォール』などがある。



ネイサン・イングラダー

ザ・ニューヨーカー誌の『21世紀の20人の作家』に選ばれる。グッゲンハイム・フェローシップ、PEN/マラマッド賞、米国芸術文学アカデミーのスー・カウフマン賞受賞。著書に、『特例省』、作品集*For the Relief of Unbearable Urges*などがある。『アンネ・フランクについて語るときに僕たちの語ること』は、2012年にピューリッツァー賞の最終選考にノミネートされ、権威あるフランク・オコナー国際短編賞を受賞している。



鵜飼哲夫

1959年生まれ。1983年に読売新聞社に入社。長く文芸担当記者を務め、安部公房、吉行淳之介、中上健次など多くの作家にインタビューを行う。現在、読売新聞文化部編集委員。



ブライアン・エヴンソン

長編小説*Immobility*、短編集*Windeye*などフィクション著書多数。O. ヘンリー賞3回、米国図書館協会最優秀ホラー小説賞、国際ホラー作家協会賞を受賞。シャーリー・ジャクソン賞、エドガー賞の最終選考にもノミネートされた。小説家の妻クリステン・トレシーと息子マックスとロードアイランド州プロビデンス在住、ブラウン大学で教鞭を取る。



江國香織

1964年東京生れ。92年『きらきらひかる』で紫式部文学賞、2002年『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』で山本賞、04年『号泣する準備はできていた』で直木賞、12年『犬とハモニカ』で川端賞を受賞。他の作品に『つめたいよるに』『ちょうちんそで』などがある。絵本の翻訳も多い。



円城塔

1972年生まれ。2007年にデビュー。2011年「道化師の蝶」で芥川賞受賞。他の主な作品に、『Self-Reference ENGINE』『屍者の帝国』（2012年、伊藤計劃との共著）などがある。



タッシュ・オウ

著書に*The Harmony Silk Factory*、*Map of the Invisible World*、*Five Star Billionaire*など。ホイットブレッド賞、英連邦賞、O.ヘンリー賞受賞。マン・ブッカー賞最終候補に2度ノミネート。『A Public Space』誌や『グラanta100』に掲載。24カ国語に翻訳。



オイ

家庭料理探究家。長崎県長崎市在住。1976年生まれ。料理を祖母に、酒を父に教わる。2005年レシピサイトぷちぐるを立ち上げ、2012年現在、掲載レシピ数は800超。一日の訪問者数は1万人超。素材の持ち味をダイレクトに楽しめる調理法をモットーに、奇をてらわない料理を作る日々。4児の父。



奥泉光

1956年生まれ。1986年「地の鳥天の魚群」で、作家デビュー。1993年「石の来歴」で芥川賞受賞。他の主な作品に、『神器軍艦「檀原」殺人事件』（2009年、野間文芸賞）など



ルース・オゼキ

小説家、映画制作者、禅僧。『イヤー・オブ・ミート』、All Over Creation、最新作、*A Tale for the Time Being*は2013年度マン・ブッカー賞候補、30カ国で翻訳出版予定。作品は科学技術、環境政治学、世界のポップカルチャーの問題が独自のハイブリッドな文体で語られ、世界の批評家から高く評価されている。かつて映像、TV映画の仕事にも従事し、自作映画がサンダンス映画祭で上映され米国公共放送で放映された。2010年曹洞宗得度。夫の環境芸術家オリバー・ケルハンマーと、ニューヨーク市とブリティッシュコロンビア州コーツ島に居住



小野正嗣

1970年生。小説に『夜よりも大きい』、『浦からマグノリアの庭へ』、『獅子渡り鼻』など、共訳書にマリー・ンディアイ『ロジー・カルプ』、エドゥアール・グリッサン『多様なものの誌学序説』などがある。



角田光代

1967年生まれ、ジュニア小説から出発し、1990年「幸福な遊戯」で海燕新人賞、2004年に『対岸の彼女』で直木賞を受賞。他の主な作品に、『八日目の蝉』（2007年、中央公論文芸賞）などがある



辛島デイヴィッド

1979年生。「文芸フェス」ディレクター。金原ひとみ、筒井康隆、いしいしんじなどの小説を英訳。国際的な出版プロジェクト（作品集「それでも三月は、また」、文芸誌（「グランタ・ジャパン」など）の企画・編集も手がける。



川上弘美

1958年生まれ。1994年「神様」で、作家デビュー。1996年「蛇を踏む」で芥川賞受賞。他の主な作品に、『センセイの鞆』（2001年、谷崎潤一郎賞）、『真鶴』（2006年、芸術選奨文部科学大臣賞）など。



川上未映子

1976年生。2008年小説『乳と卵』で芥川賞、2009年詩集『先端で、さすわ さされるわ そらええわ』で中原中也賞を受賞。ほかに小説『ヘヴン』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、紫式部文学賞、『愛の夢とか』で谷崎潤一郎賞を受賞。



川上洋平

"本のある生活をふやすために、新たな本のあり方を模索し人と本が会える素敵な偶然を演出するユニット、ブックピックオーケストラ代表。益子のSTARNET、渋谷SUNDAY ISSUE、新宿のシェアオフィスHAPONをはじめとした書籍の展示販売や、全国各地での『文庫本葉書』などオリジナル商品の販売、本にまつわる企画・ワークショップなど、さまざまな形で本のある時間や空間を提案している。 <http://www.bookpickorchestra.com>"



北方謙三

1947年生まれ。1970年「明るい街で」で新潮新人賞を受賞してデビュー。のちにエンターテインメントに転じる。主な作品に、『湯きの街』（1985年、日本推理作家協会賞）、『水滸伝』（2000～2005年）など。



北村薫

1949年生まれ。1989年『空飛ぶ馬』でデビュー。2009年『鷺と雪』で直木賞受賞。他の主な作品に、『スキップ』（1995年）『ターン』（1997年）『ひとがた流し』（2006年）などがある。



桐野夏生

1951年生まれ。1999年『柔らかな頬』で直木賞を受賞。他の主な作品に、『OUT』（1998年、日本推理作家協会賞）『グロテスク』（2003年、泉鏡花賞）、『東京島』（2008年、谷崎潤一郎賞）など。



ロバート・キャンベル

日本文学研究者・東京大学大学院教授。江戸から明治時代の日本文学が専門で、芸術、メディア、思想などにも造詣が深い。テレビとラジオでMC、ニュース・コメンテーターをつとめる一方、新聞雑誌連載、書評など、さまざまなメディアで活躍している。『ロバート キャンベルの小説家神髄 — 現代作家6人との対話 —』（NHK出版）ほか編著多数。



ジョン・クラッセン

1981年生れ。オンタリオ州ナイアガラフォールズ出身。現在ロサンゼルス在住。This Is Not My Hat（『ちがうねん』）で、コルデコット賞受賞。初めて文と絵を手掛けた絵本 I Want My Hat Back（『どこいったん』クレヨンハウス刊）は、2011年『ニューヨークタイムズ・ブックレビュー』の年間ベストイラスト絵本などを受賞。他に、長編アニメ映画、ミュージックビデオ、編集作品も手掛ける。



ケイト・グリフィン

英国生まれ。カズオ・イシグロやイアン・マキューアンなど英国を代表する作家を輩出した名門校でも知られる、イーストアングリア大学（在ノリッチ）で、英国文芸翻訳センター国際プログラムディレクターを務める。



エトガー・ケレット

1967年テルアビブ生。2007年、シーラ・ゲフェンとの共同監督映画『ジェリーフィッシュ』（原題：Jellyfish）でカンヌ国際映画祭の『カメラドール』（新人監督賞）受賞。2010年フランス芸術文化勲章シュバリエ章受章。作品はザ・ニューヨーカー誌、ゾエトロープ誌、パリレビュー誌などに掲載され、世界34カ国語に翻訳。最新短編小説集*Suddenly a knock on the Door*を新潮社が出版予定。1967年テルアビブ生。2007年、シーラ・ゲフェンとの共同監督映画『ジェリーフィッシュ』（原題：Jellyfish）でカンヌ国際映画祭の『カメラドール』（新人監督賞）受賞。2010年フランス芸術文化勲章シュバリエ章受章。作品はザ・ニューヨーカー誌、ゾエトロープ誌、パリレビュー誌などに掲載され、世界34カ国語に翻訳。最新短編小説集*Suddenly a knock on the Door*を新潮社が出版予定。



鴻巣友季子

翻訳家、エッセイスト。訳書にジョン・クッツェー『恥辱』、トマス・クック『緋色の記憶』、マーガレット・アトウッド『昏き目の暗殺者』、ルル・ワン『睡蓮の教室』、ブロンテ新訳『嵐が丘』、著書に『翻訳のココロ』『明治大正翻訳ワンダーランド』、『カーヴの隅の本棚』など



トニー・ゴンザレス

Bento Books代表取締役。主な訳書に結城浩『数学ガール』。米国ジョージ大学の教育工学博士課程中退。20年以上の翻訳の経験を持ち、最近では小説翻訳、技術論文翻訳に力を入れている。



桜木紫乃

1965年生まれ。2002年「雪虫」でデビュー。2013年『ホテルロイヤル』で直木賞受賞。他の主な作品に、『ラブレス』（2012年、島清恋愛文学賞）がある。



桜庭一樹

1971年生まれ。1999年「夜空に、満点の星」でデビュー。2008年、『私の男』で直木賞受賞。他の主な作品に、『赤朽葉家の伝説』（2007年、日本推理作家協会賞）などがある。



柴崎友香

1973年生。2000年『きょうのできごと』でデビュー（同作は2003年に行定勲監督により映画化）。『その街の今は』で織田作之助賞大賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞。『寝ても覚めても』で野間文芸新人賞受賞。他の著書に『ビリジアン』、『わたしがいなかった街で』、エッセイ集『よう知らんけど日記』な



Photo by 島袋里美

柴田元幸

1954年生。東京大学文学部教授。訳書にポール・オースター、ブライアン・エヴンソンはじめ多数。文芸誌『MONKEY』、英語文芸誌*Monkey Business*を責任編集。1954年生。東京大学文学部教授。訳書にポール・オースター、ブライアン・エヴンソンはじめ多数。文芸誌『MONKEY』、英語文芸誌*Monkey Business*を責任編集。



島田雅彦

1961年生まれ。1983年、『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。他の主な作品に、『夢遊王国のための音楽』（1984年）『彼岸先生』（1992年、泉鏡花賞）『退廃姉妹』（2006年）など。



管啓次郎

詩人・翻訳家・比較文学者。1958年生。エッセイ集『本は読めないものだから心配するな』、『コロンブスの犬』、『斜線の旅』、詩集『時制論』に加え、斬新な新訳『星の王子さま』（西原理恵子・絵）などがある。野崎歓とともに『ろうそくの炎がささやく言葉』を編集。最新作は『ストレンジオグラフィ』。



アレクサンダー・O・スミス

主な訳書に伊藤計劃『ハーモニー』、東野圭吾『容疑者Xの悲劇』など。ハーバード大学で日本古典文学の修士号を取得後、ビデオゲーム、小説、まんが、詩歌など多岐にわたる作品翻訳を手がけ、Philip K. Dick Special Citation、ALA Batchelder Awardなど、数々の賞に輝いている。



瀧井朝世

1970年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。出版社勤務を経てフリーライター。朝日新聞「売れてる本」欄、WEB本の雑誌「作家の読書道」、「an・an」「波」「きらら」などで作家インタビュー・ブックレビューを執筆。TBS系列テレビ「王様のブランチ」でブックコーナーのブレンも務める。



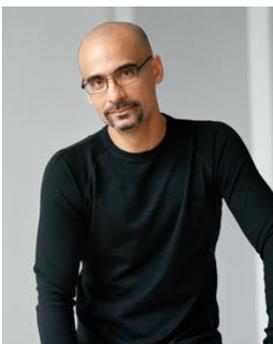
玉川重機

『ロビンソン漂流記』からボルヘスや大江健三郎まで、文学作品を女子高生・草子が縦横に読むマンガ『草子ブックガイド』が大好評。他の作品に『ハヤ子サケ道をゆく』など。



辻村深月

1980年生まれ。2004年「冷たい校舎の時は止まる」でデビュー。2012年『鍵のない夢を見る』で直木賞受賞。他の主な作品に、『ツナグ』（2010年、吉川英治文学新人賞）など。



ジュノ・ディアス

1968年ドミニカ生まれの米国育ち。日本のマンガやアニメが大好き。自身のルーツや趣味が全開した『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』はオタク文化とマジックリアリズムのハイブリッド。現代の米国最重要作家の一人。



都甲幸治

1969年生。早稲田大学教授。著書に『21世紀の世界文学30冊を読む』、訳書にジュノ・ディアス『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』、『こうしてお前は彼女にフラれる』(ともに共訳)など。



デボラ・トリースマン

英オックスフォード生まれ、米出版界で最も影響力のある雑誌と言っても過言ではない、「ニューヨーク」のフィクション・エディターを2003年から務める。編集者としてだけでなく、優れたインタビュアーとしても有名。



中島京子

1964年東京生まれ。大学卒業後、編集者などを経て、2003年に小説『FUTON』（講談社）でデビュー。長編、短編、エッセイなどを執筆。2009年、アイオワ大学の国際創作プログラム（IWP）に参加。2010年『小さいうち』（文藝春秋）で第143回直木賞を受賞。翻訳書に董啓章著『地図集』（藤井省三氏と共訳・河出書房新社）。



中西玲人

1974年大阪市生。14歳で渡英。大学卒業後、一貫してクリエイティブ分野での産官学連携の枠組み構築に従事し、展覧会・雑誌インタビュー・舞台・ネット番組などのプロデュースも手掛け、横断的な創造領域の企画を立ち上げる。専門は文化政策（国立政策研究大学院大学）で、2008年よりアメリカ大使館文化部に在籍。



中村文則

1977年生。芥川賞、大江賞など。『掏摸（スリ）』の英訳版が米紙ウォールストリートジャーナルで2012年のベスト10小説に選ばれる。14年、デイビッド・L・グッディーズ賞（米）を受賞。



西加奈子

1977年、テヘラン生まれ。カイロ、大阪で育つ。2004年『あおい』でデビュー。2007年『通天閣』で織田作之助賞受賞。2013年『ふくわらい』で河合隼雄物語賞受賞。主な著書は『さくら』『漁港の肉子ちゃん』『炎上する君』など。小説の他に絵本『きいろいゾウ』『めだまとやぎ』も出版。



長谷川義史

大阪生まれ。ユーモラスで大らかな独自の世界を生み出す。『おたまさんのおかいさん』（第34回講談社出版文化賞絵本賞）、『ぼくがラーメンたべてるとき』（第57回小学館児童出版文化賞）ほか多数。翻訳に『どこいったん』など。



蜂飼耳

1974年神奈川県生まれ。詩集『いまにもうるおっていく陣地』で第5回中原中也賞、詩集『食うものは食われる夜』で第56回芸術選奨文部科学大臣新人賞、絵本『うきわねこ』で第59回産経児童出版文化賞ニッポン放送賞受賞。近著に文集『空席日誌』がある。



幅允孝

BACH（バッハ）代表。ブックディレクター。人と本がもうすこし上手く出会えるよう、様々な場所で本の提案をしている。伊勢丹新宿店本館地下2階「ビューティアポセカリー」や、羽田空港と原宿にある「Tokyo's Tokyo」などショップでの選書、千里リハビリテーション病院のライブラリー制作など、その活動範囲は本の居場所と共に多岐にわたる。著作に『幅書店の88冊』（マガジンハウス）がある。他にも『本の声を聴けブックディレクター幅允孝の仕事』（著・高瀬毅／文藝春秋）が刊行中。www.bach-inc.com



林真理子

1954年生まれ。1985年「最終便に間に合えば」「京都まで」で直木賞受賞。他の主な作品に、『白蓮れんれん』（1995年、柴田錬三郎賞）、『みんなの秘密』（1998年、吉川英治賞）など。



原田マハ

1962年東京生。伊藤忠商事株式会社、森ビル森美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館勤務を経て、'02年フリーのキュレーター、カルチャーライターとなり、'06年より作家となる。'05年『カフーを待ちわびて』で第一回日本ラブストーリー大賞受賞。2012年『楽園のカンヴァス』で第二十五回山本周五郎賞受賞。



デイヴィッド・ピース

1967年英ヨークシャー生まれ。「グランタ」誌が選ぶ若手イギリス作家ベスト20に、03年に選ばれる。東大で教鞭をとりながら、『TOKYO YEAR ZERO』『占領都市TOKYO YEAR ZERO II』に続く、東京3部作の第3弾を執筆中。



平野啓一郎

1975年生。京都大学在学中に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。近著は新書『私とは何か「個人」から「分人」へ』、長編小説『空白を満たしなさい』。



BOOKTRUCK

2012年にトラックに本を積み込んだ移動式書店「BOOK TRUCK」をスタート。公園や駅前、野外イベントなどの行く先々に合わせて、その都度品揃えや形態が変わる変幻自在な本屋です。



アナ・フアン

1961年スペイン、バレンシア生まれ。スペインで最も有名なイラストレーター。1995年からアメリカのThe New Yorkerの表紙をこれまで20作品以上手掛ける。「9.11」の10年後をテーマにした表紙が話題になった。その他、スペイン国内最大の新聞El PaisやEl Mundoでも紹介されている。1994年から3か月間日本に滞在し、定期的に日本に来日するなど、親日家としても知られる。2005年の愛知万博ではスペインのメインビジュアルを担当、2004年からは毎年ラテン・ビート・フィルム・フェスティバルのイラストを手掛けている。主な受賞歴に、2010年 スペイン文化庁より National Illustration Award、バレンシア国立大学から最優秀賞を受賞など。



Photo by Deborah Treisman

ジョン・フリーマン

1974年オハイオ生まれ。書評家としてキャリアを始め、09年から13年まで『グラタ』誌の編集長として、雑誌の国際化に大きく貢献した。現在、米コロンビア大学客員教授。



Photo by 朝岡英輔

古川日出男

小説家。1966年生。著作に『LOVE』、『ベルカ、吠えないのか?』、『アラビアの夜の種族』、『聖家族』など。文学の音声化にも積極的に取り組み、朗読CD『詩聖／詩声』等を発表。近作に『南無ロックンロール二十一部経』、戯曲『冬眠する熊に添い寝してごらん』（上演版演出・蜷川幸雄）がある。



ウティット・ヘーマムーン

1975年生。シラパコーン大学芸術学部卒。ビジュアルアートから、文学、映画、音楽に至るまで、幅広い分野に関心が高く、ディスクジョッキー、短編映画の映画監督、アートディレクター、ムービータイム誌のコラムニストなどを経験。2009年、The Brotherhood of Kaeng KhoiがSeven Book賞、東南アジア文学賞受賞。CNGOの選ぶタイの最重要人物の一人。国際交流基金招聘により第19回開高健記念アジア作家講演会に参加。長編小説、短編、映画・文芸批評を手掛け、現在、バンコク在住。



アレクサンダル・ヘモン

著書は、『ノーホエア・マン』、『ラザルス計画』、短編集『愛と障害』、自伝的エッセイ集The Book of My Lives (Farrar Straus and Giroux)。現在、The Making of Zombie Warssを執筆中（2015年Farrar Straus and Girouxから出版予定）。芸術家、学者のためのグッゲンハイム・フェロウシップ、マッカーサー財団の「ジーニアス・グラント（天才賞）」を受ける。



松家仁之

1958年生。大学卒業後、新潮社に勤務し、海外文学シリーズの新潮クレスト・ブックス、季刊誌「考える人」を創刊。2012年、長編『火山のふもとで』で小説家としてデビュー、同作で読売文学賞受賞。最新作に『沈むフランス』。編著に『美しい子ども』（新潮クレスト・ブックス）、『土屋耕一のことばの遊び場』（ほぼ日ブックス）。



松田青子

1979年兵庫県生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業。訳書に『はじまりのはじまりのはじまりのおわり』（アヴィ=著/トリシャ・トゥサ=画 福音館書店）、小説『スタッキング可能』がある。2月10日に新刊の小説『英子の森』が発売予定。



松田奈緒子

1969年生まれ。「コーラス」にてデビュー。代表作は『レタスバーガープリーズ、OK, OK!』『少女漫画』『えへん、龍之介。』など多数。近刊の『重版出来!』が話題を呼んでいる。



デイヴィッド・ミッチェル

世界が注目するイギリス人作家。クラウド・アトラス』『ナンバー9ドリーム』で二度ブッカー賞の最終候補に。最新作『ヤコブ・デ・ゾートの千の秋』の日本語版は今年刊行予定。東田直樹の自伝『自閉症の僕が跳びはねる理由』を共訳している。



道尾秀介

1975年生まれ。2004年「背の眼」でデビュー。2010年『月と蟹』で直木賞受賞。他の主な作品に、『カラスの親指』（2009年、日本推理作家協会賞）『光媒の花』（2010年、山本周五郎賞）など。



宮部みゆき

1960年生まれ。1987年「我らが隣人の犯罪」でデビュー。他の主な作品に、『火車』（1992年、山本周五郎賞）、『模倣犯』（2001年、毎日出版文化賞）『名もなき毒』（2007年、吉川英治賞）など。



村田沙耶香

1979年千葉県生まれ。2003年、23歳の時に在学中に書いた「授乳」で群像新人賞優秀作を受賞してデビュー。2009年『ギンイロノウタ』で野間文芸新人賞受賞、2013年『しろいろの街の、その骨の体温の』で三島由紀夫賞受賞。他の著書に『マウス』『星が吸う水』『ハコブネ』『タダイマトビラ』などがある。



本仮屋ユイカ

1987年9月8日生まれ。東京都出身。2001年に『3年B組金八先生』(TBS)で注目され、2005年には連続テレビ小説『ファイト』(NHK)でヒロインに。主な映画出演作に『スウィングガールズ』(04),『ワイルド7』(11),『僕等がいた』(12),ドラマ『そこをなんとか』など。現在TBS系『王様のブランチ』でメインMCを務める。



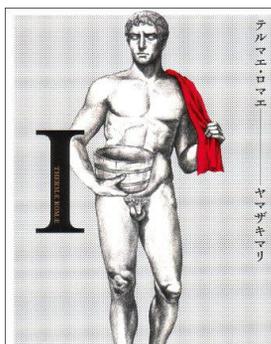
本谷有希子

1979年7月14日生まれ。2000年「劇団、本谷有希子」を旗揚げし、主宰として作・演出を手掛ける。2006年上演の『遭難、』で第10回鶴屋南北戯曲賞を受賞。2008年上演の『幸せ最高ありがとうマジで！』で第53回岸田國士戯曲賞を受賞。小説では2011年に『ぬるい毒』(新潮社)で第33回野間文芸新人賞を受賞。2013年、『嵐のピクニック』(講談社)で第7回大江健三郎賞を受賞。



ロサ・モンテロ

ジャーナリスト、小説家。闘牛もり打ち師の娘としてマドリッドに生まれる。1976年よりエル・パイス紙所属。1980年ナショナル・ジャーナリズム賞受賞。他小説、ジャーナリズムの世界で多数の賞受賞している。



ヤマザキマリ

1967年生。17歳で単身イタリア渡航、フィレンツェの美術学校で油絵を学ぶ。古代ローマ人浴場技術者が主人公の『テルマエ・ロマエ』(手塚治虫文化賞短編賞)は世界中で大反響を呼び、映画も第二弾が現在制作中。他の作品に安部公房や三島由紀夫を題材にした『ジャコモ・フォスカリ』や『ステーブ・ジョブズ』など。



ジェフリー・ユージェニデス

長編小説を3作書いている。第1作『ヘビトンボの季節に自殺した五人姉妹』(1993年出版)は、今では現代の古典とみなされ、ソフィア・コッポラによって映画化もされた。2002年に発表された『ミドルセックス』は、ピューリッツァー賞フィクション部門賞、WELT-Literatur Preis、スペインの Santiago de Compostela文学賞を受賞し、また全米書評家協会賞、国際IMPACダブリン文学賞、フランスのメディシス賞などの最終選考にノミネートされた。2011年に発表した『マリッジ・プロット』は、全米書評家協会賞の最終選考にノミネートされ米国の小売書店から同年の最良長編小説に挙げられた。同書はフランスのフィッツジェラルド賞とマダム・フィガロ文学賞も受賞。プリンストン大学ルイスアートセンターで創作科教授を務めている。作品は35カ国語に翻訳されている。



吉増剛造

詩人。1939年生まれ。慶應義塾大学国文学科卒業。在学中より詩作を始める。現代詩の最前線を切り拓く詩作品を発表するかたわら、詩の朗読などのパフォーマンスを世界各地で行う。近著に『詩学講義 無限のエコー』。



キム・ヨンス

1970年慶尚北道金泉生。成均館大学校英語英文学科卒。1993年『作家世界』に詩を発表してデビュー。翌年、長編小説『仮面を指して歩く』)を出版。3作目の『グッドバイ李箱』(2001年)はヒューマニスティックなイマジネーションの最高峰にある傑作と批評家から高く評価された。この作品は、全体として、韓国の文学史上有数のエキゾチックかつ複雑な物語を書いた1930年代韓国の実存主義作家李箱に関する自身の細心かつ徹底的な研究がもとになっている。『グッドバイ李箱』は、『互いに相容れないものではない』とキムが考える真実と存在の問題ならびに文学の定義を扱っている。かつて、キムは『書く理由』について、『書くという行為の中に本当に真実が存在するかどうかを明らかにするため』と言っている。東西文学賞(2001年)、東仁文学賞(2003年)、大山文学賞(2005年)、ファン・スンウォン文学賞(2007年)、李箱文学賞(2009年)など受賞多数。作品集5冊と長編小説8作を出版している。



カルメ・リエラ

小説家、エッセイスト。マヨルカ島パルマ出身。カタルーニャ語・スペイン語で執筆活動を行う。1994年カタルーニャ語で書いた作品（英題Blue Horizons of no Return）がスペイン国民小説賞を受賞。



マージョリー・リュウ

小説家・弁護士。恋愛ファンタジー小説の人気シリーズは、ニューヨークタイムズ・ベストセラー。小説の他に、Dark Wolverine、Black Widow、X-23など、マーベルコミックスの人気コミックの原作も手がける。最新作のAstonishing X-Menは、LGBTコミュニティの描き方が評価され、GLAAD Media Awardにノミネートされた。



エルマー・ルーク

編集者として村上春樹を最初に英語圏の読者に紹介した、ハルキ・ムラカミ世界デビューの立役者。日本財団 READ JAPANプログラム・アドバイザー。



綿矢りさ

1984年生まれ。2001年、「インストール」で文藝賞を受賞してデビュー。2003年、19歳の時、『蹴りたい背中』で芥川賞を史上最年少受賞。主な作品に、『かわいそうだね?』（2011年、大江健三郎賞）など。



杉江松恋

1968年生まれ。慶應義塾大学卒。ライター。ミステリー書評を主として活動中。著書に『読んだら止まらない 海外ミステリーマストリード100』、『東海道でしょう!』（藤田香織との共著）他。